

Title	邦銀の資本市場におけるディスカウント要因から見た今後目指すべき戦略についての一考察
Sub Title	
Author	井口, 蓮太郎(Iguchi, Rentaro) 齋藤, 卓爾(Saito, Takuji)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2014
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2014年度経営学 第2903号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002014-2903">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002014-2903</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2014 年度）

論文題名

邦銀の資本市場におけるディスカウント要因から見た  
今後目指すべき戦略についての一考察

主 査	齋藤 卓爾 准教授
副 査	高橋 大志 教授
副 査	村上 裕太郎 准教授

学籍番号	81330065	氏 名	井口 蓮太郎
------	----------	-----	--------

## 論文要旨

所属ゼミ	齋藤研究会	学籍番号	81330065	氏名	井口 蓮太郎
(論文題名)					
邦銀の資本市場におけるディスカウント要因から見た 今後目指すべき戦略についての一考察					
(内容の要旨)					
<p>近年の日本経済における長期に亘る低迷の原因の一つとして、金融機能不全を指摘する声も多く、邦銀は海外の金融機関と比較して資本市場からの評価が低いとも言われている。本研究は、邦銀の資本市場からの評価におけるディスカウント要因を明らかにし、それに基づき、資本市場からの評価改善の為に、邦銀が今後目指すべき戦略について考察し、それを通じて日本の金融システムの機能向上についての一つの視点を得ることを目的としている。</p> <p>分析手法は、研究対象として世界 75 ヶ国、535 社の金融機関を抽出し、各社の直近の株式・財務データを用いたクロスセクション分析。先行研究等を踏まえ、銀行の資本市場からの評価に影響を与えると考えられる、銀行を取り巻く外部環境に関する仮説(仮説 1-4)、及び個別の銀行が採り得る経営・戦略に関する仮説(仮説 5-8)を導出し、重回帰分析により仮説の検証を行った。重回帰分析においては、銀行の市場からの評価を表す指標として Tobin's q を被説明変数に用い、構築した仮説に基づき設定した各指標を、Tobin's q に対する説明変数として用いて分析を実施した。</p> <p>本研究によって明らかになったことを要約すると次の通りとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 邦銀は海外の銀行と比較して資本市場における評価はディスカウントされている。</li><li>・ 銀行を取り巻く外部環境として考えられる、銀行所在国における「銀行規制の強さ」、「金利の高さ」は、銀行の市場評価に正の影響を与え、「解雇規制の強さ」は負の影響を与える。</li><li>・ 各国の金利や規制などの外部環境を考慮した上で、個別の銀行の「ガバナンス強化」は、銀行の市場評価に正の影響を与え、「多角化」、「規模の拡大」、「海外展開」は負の影響を与える。</li><li>・ 日本の銀行固有の資本市場におけるディスカウント要因を説明し得る要素としては、他国比強い水準である日本における解雇規制、改善の余地があると考えられるガバナンス体制が挙げられる。それに基づき考えられる、日本の銀行が今後採り得る経営・戦略の方向性は、硬直的な人事制度の改善や、ガバナンス構造の強化、といったものである。具体的には社外取締役比率の向上により経営に多様性をもたらすことが、資本市場からの評価の改善、企業価値の向上に資するという内容が研究により示唆された。</li></ul>					